

(別紙)

福島第一原子力発電所 土壌中の Pu 分析結果

1. 測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
グラウンド(西北西約 500m)	11月14日	$(2.1 \pm 0.17) \times 10^{-1}$	$(9.3 \pm 1.1) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約 500m)	日本分析	N.D. [$<1.3 \times 10^{-2}$]	$(1.8 \pm 0.44) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約 500m)	センター	$(3.6 \pm 0.67) \times 10^{-2}$	$(3.7 \pm 0.66) \times 10^{-2}$
国内の土壌		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和 53 年～平成 20 年

: 「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

11月14日に検出された Pu-238 と Pu-239, 240 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3月21日以降にサンプリングした試料から Pu-238 および Pu-239, Pu-240 が検出されている箇所があるが、値に大きな変化は見られていない。

以上